

[研究論文]

児童が自発的、自治的に企画・運営する係活動への
担任教師の支援プロセスに関する質的研究
—小学校教諭へのインタビューのM-GTAを用いた分析を通して—

A qualitative study on the support process of homeroom teachers for activities planned and
operated by children voluntarily and autonomously
—Through the analysis of interviews with elementary school teachers using M-GTA—

澤山 愛

Ai SAWAYAMA

福岡教育大学教育学研究科教職実践専攻
スクールリーダーシップ開発コース
学校適応支援リーダープログラム/
宗像市立自由ヶ丘南小学校

脇田 哲郎

Tetsuro WAKITA

福岡教育大学教職実践ユニット

(2023年1月31日受理)

本研究は「学級の児童が学級内の仕事を分担処理し、児童の力で学級生活を楽しく豊かにすることをねらいとしている」(小学校学習指導要領解説特別活動編, 以下, 小解説) 係活動に視点を置いている。本研究で取り組む係活動は、学級生活の向上のための活動目標の設定や、目標達成のための役割分担を自分たちで行い、係を構成するメンバーと協働して実践する活動である。この係活動に取り組ませる担任教師の支援プロセスを明らかにするためにM-GTAを用いてインタビュー内容を分析し、28の概念を生成し、それらを12のサブカテゴリーにまとめ、さらに5つのカテゴリーに統合した。5つのカテゴリーは《係活動とは》《担任教師が感じていること》《係活動の方法》《係活動の影響》《児童が感じていること》であった。その結果、担任教師が日頃の観察をもとに係のメンバー構成を行ったり、企画書をみて適切に支援を行ったりすることで係活動が活性化することが示された。

キーワード: 係活動, 学校適応感, 係の企画書, 学級担任の指導観, インタビュー, M-GTA, 概念

1 問題と目的

(1) 主題設定の理由

① 係活動の内容について

係活動は教科書もなく、教員の指導性が大きい当番活動と混同されることもある。低学年では、1年生のうち一人一役になるように当番的な係活動からスタートさせ、責任感や自己有用感の素地をつくり、1年生の2学期くらいから2年生にかけて、徐々に当番活動から係活動へとシフトしていくようにする必要がある。しかし、在籍校の2年生のある学級には係活動の種類の中に、当番活動の要素が強い係が6つのうち2つある現状が

あった。また、1学期に係活動について悩んでいることを在籍校の複数の担任教師に聞いてみると、「創意工夫がなく、同じような活動ばかりしている係がある」「係によって、積極的に活動できている係とできていない係がある」「子供たち活動したいという気持ちはあるけれど、なかなか動き出せずにいる」「活動が停滞している」「役割分担ができず、一部の子の活躍で活動が成り立っている」「限られた『特別活動』の時数の中で、係活動の時間を設定することがなかなかできない」という悩みが多く挙がっていた。

係活動は、「学級の児童が学級内の仕事を分担処理し、児童の力で学級生活を楽しく豊かにすることをねらいとしている」(小学校学習指導要領解説

特別活動編，以下，小解説）ため，当番活動とは区別して，児童が自発的，自治的に企画運営することが望ましい。「特別活動指導資料 みんなで，よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」（以下，特別活動指導資料）では，係活動を行う際には，係を設置する上では，以下の6点に留意する必要があると述べられている。

- ・児童が必要とする係である。
- ・継続的に活動できる。
- ・成果が学級に反映される。
- ・複数で協力し合って活動できる。
- ・創意工夫が生かせる。
- ・提出物や忘れ物をチェックさせるなど，管理的な仕事の補助にならない。
- ・児童の負担過剰にならない。

在籍校の1学期の係活動の現状や，担任教師の係活動を指導する上での悩みと上記の6点を照らし合わせてみると，係活動を設置する際に，上記の6点に留意できていない現状が窺えた。以上のことから，担任教師に対する係活動のコンサルテーションを通して，担任教師が係活動に適切に関わることができるようにしたいと考えた。また，担任教師へのコンサルテーションを通して，担任教師の係活動の指導観がどのように変容していき，担任教師は児童の係活動の様子がどのように変容してきているという実感をもっているかを本研究で明らかにしようと考えた。

2 研究

(1) 目的

担任教師に対して，児童が自発的，自治的に進める係活動についての研修や日常的なコンサルテーションを行い，担任教師の係活動の指導観や児童の係活動の様子への実感がどのように変容していくかを明らかにする。

(2) 方法

①実施期間 20XX年8月～20XX年12月

調査期間 20XX年11月～20XX年12月

②対象 X小学校2年A組学級担任 a 教諭

4年B組学級担任 b 教諭

6年C組学級担任 c 教諭

a 教諭は，特別支援学級の担任経験はあるが，今年度初めて通常学級を担任する教職経験3年目の20代男性講師である。1学期末での前担任の退職に伴い，2学期よりX小学校に赴任し，2年A組を担任している。

b 教諭は，昨年度末に大学を卒業した教職経験

1年目の20代男性教諭である。

c 教諭は，昨年度より報告者が係活動のコンサルテーションを行っている教職経験5年目の20代男性教諭である。

③データの収集方法と質問事項

20XX年11月10日（以下，実施初期），12月1日（以下，実施中期），12月23日（以下，実施後期）に半構造化インタビューを行った。インタビューは児童下校後に職員室で，落ち着いて話ができるよう配慮して行った。教師には，大きくは次の2点について質問した。一つ目は「最近の学級の係活動の様子について教えてください」というもので，二つ目は「最近の児童の様子を教えてください」というものである。インタビュー内容は，3回とも対象者の許可を得てレコーディングし，後に逐語録として文書に起こした。一人当たりのインタビュー時間の時間は，初期・中期・後期を合わせて1名あたり概ね30分程度であった。

④研究における倫理的配慮

対象者には，事前に研究の目的，方法，研究の参加並びに中段における個人の自由意志の尊重，データの使用範囲について口頭で説明し，了承を得た上で実施している。なお，逐語録及び研究結果については，後日対象者に内容の確認を依頼した。

⑤分析方法

本研究では，「児童が自発的に企画・運営する係活動を実施した担任教師の指導観」を調査するために，木下(2003)の修正版グランテッド・セオリー・アプローチ（以下，M-GTA）を参考にインタビューの逐語録を分析した。

M-GTA は，データの確認を継続的に行いながら解釈を確定していくので，質問紙調査のようにデータを収集，入力しそれに対して分析を行い，結果を得るといった段階的な形とは根本的に異なるデータに密着した分析方法であるので，本研究の分析には最適だと考えた。分析は，3名の対象者に対して行ったメインの2つの質問に対する回答を分析した。なお，分析に基づいた論文の作成については，脇田(2022)と山本・竹鼻(2021)を参考にした。

M-GTA ではインタビューの逐語録データから概念を生成し，概念間の関係をカテゴリーに集約し，最終的に結果図として提示する。具体的には以下のように分析を行った。まず分析がデータに根差したものとなるように分析テーマを「児童が自発的，自治的に企画・運営する係活動への担任教師の支援プロセス」と設定した。分析焦点者は小学

校教諭とした。データ分析をする際には分析テーマと分析焦点者を意識しながら逐語録データを読み込み、分析ワークシートを作成した。分析ワークシートは概念名・定義・具体例（ヴァリエーション）・理論的メモから構成されており、概念ごとに作成した。最初に一人の参加者の逐語録データから分析テーマと関連の深い箇所を具体例として、初期の概念名・概念の定義を分析ワークシートに記入した。他の参加者の逐語録からも類似する具体例を収集し、概念の定義と概念名の修正を行いながら概念を生成した。理論的メモには解釈の際に参考になるアイデアや注意点、他の概念との関連性についての検討を記入した。この作業を概念が安定し、新たな概念が生成できなくなるまで繰り返した。分析ワークシートによる概念生成後に、概念間の関係について理論的メモを参照しながら検討し、カテゴリーとして集約した。さらにカテゴリー間の関係を結果図としてまとめた。また結果図は簡潔なストーリーラインにより説明した。なお生成された概念は“ ”，サブカテゴリーは〈 〉，カテゴリーは《 》で示した。

(3) 研究の実際

M-GTA の分析法を参考に、2つの中心質問に対して28の概念を生成し、それらを12のサブカテゴリーにまとめ、さらに5つのカテゴリーに統合した。5つのカテゴリーは《係活動とは》《担任教師が感じていること》《係活動の方法》《係活動の影響》《児童が感じていること》であった。

①結果図「児童が自発的、自治的に企画・運営する係活動を実施した担任教師の指導観」(図1)

児童が自発的、自治的に企画・運営する係活動を実施した教師の指導観には《係活動とは》という〈係活動の定義〉を理解し、〈係活動の目的〉も理解した上に、学校目標や学級目標も達成できるという意識ももって指導にあたっていた。係活動の指導にあたって《担任教師が感じていること》は学級での係活動が活発に行われるようになるにつれ、児童の係活動に対して《学級担任が感じている児童の活動の課題》も多様なものになっていき、その都度《係活動の方法》を見直しながら指導を行っていた。その方法については、〈係の種類決定〉は学級会の中で児童が自発的、自治的に行うことができるように工夫し、〈係のメンバー構成〉は児童任せにせず、担任教室の適切なリーダーシップのもと、児童の人間関係が広がるよう工夫して行われていた。係活動が停滞しないように、また、負担が一部の児童に偏らないように、見通

しをもって活動を行うことができるように〈係活動の企画書〉を作成させていた。また、〈係活動の本番〉についても、限られた時間の中で朝の会の時間などを活用して、児童が企画・運営した係活動の時間を確保していた。その〈活動の内容〉についても様々な係が工夫して活動を行っており、係活動が停滞することはなくなっていた。そのことを《学級担任の思いや願い》として、〈児童の係活動への賞賛〉を行っていたり〈今後への期待〉をしたりしている様子も見られた。そのように児童が自発的、自治的に企画・運営してきた《係活動の影響》として、学級がよい雰囲気になったという影響や、児童が係活動を楽しみにメリハリある学校生活を送ったりするようになったという〈学級への影響〉があった。また〈係活動から波及した影響〉として人間関係や他の教育活動への影響や〈生活態度への影響〉があった。その影響は《児童が感じていること》にも表れており〈係活動を企画・運営する児童の意識〉として目的意識をもって、主体的に係活動を行うことができるようになった。また参加した側の児童も〈企画・運営する児童のがんばりを認める様子〉がみられた。

②生成されたカテゴリーとサブカテゴリー、概念について具体的に説明する。

ア《係活動とは》(表1)

このカテゴリーは、担任教師が係活動の意義や目的について考えていることであり〈係活動の定義〉〈係活動の目的〉の2つのカテゴリーで構成された。

〈係活動の定義〉は“対象者が行った係活動への定義づけ”の概念からなり、担任教師が係活動の定義づけして係活動に取り組みさせていることであった。

〈係活動の目的〉は“係活動を行う目的”“係活動を行うことで達成される学校目標や学級目標”の2つの概念からなり、“係活動を行う目的”は担任教師が目的意識をもって係活動に取り組みさせていることであった。“係活動を行うことで達成される学校目標や学級目標”は係活動を行うことで、学校目標や学級目標が達成されることを意識して支援していることであった。

イ《学級担任が感じていること》(表2)

このカテゴリーは、担任教師が、児童が自主的・自発的に行う係活動について感じていることであり、〈学級担任が感じている児童の活動の課題〉〈学級担任の思いや願い〉の2つのサブカテゴリーから構成された。

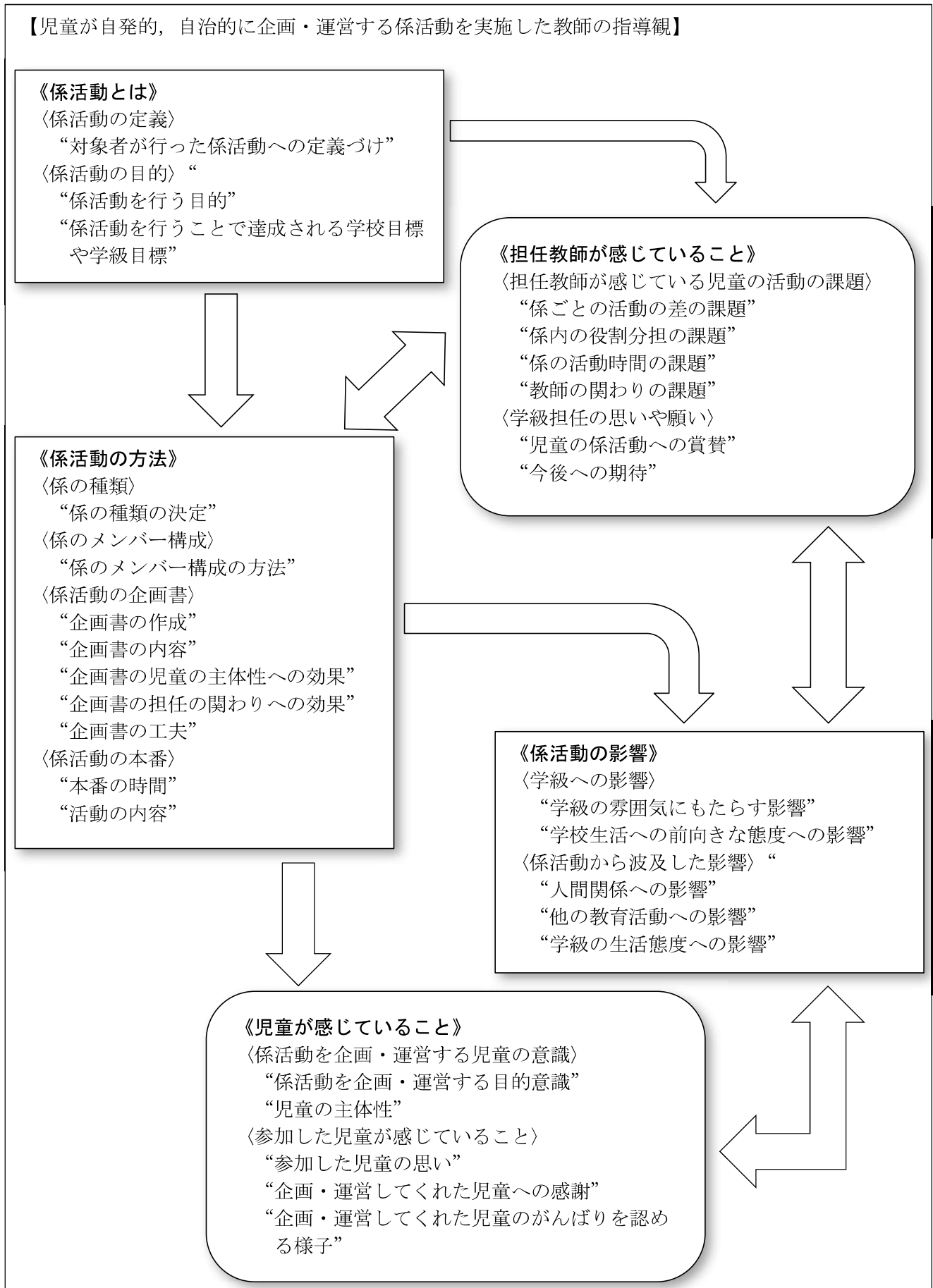


図1 結果図「児童が自発的、自治的に企画・運営する係活動を実施した担任教師の指導観」

〈担任教師が感じている児童の活動の課題〉は“係ごとの活動の差の課題”“係内の役割分担の課題”“係の活動時間の課題”“教師の関わりの課題”の4つの概念からなり、担任教師が学級の児童の係活動を支援する上で、課題と感じていることについてであった。“係ごとの活動の差の課題”は係ごとに活動の内容に差があることを担任教師が課題と感じ、どうにかしなければならぬと感じていることであった。“係内の役割分担の課題”は役割分担を詳しく、分かりやすくしなければならぬと感じていることであった。“係の活動時間の課題”は学級活動は年間 35 時間という限られた時

間の中で、どのように時間を設定するか悩んでいることである。“教師の関わりの課題”は教師が忙しい日々の中でどのように係活動において児童と関わっていくか悩んでいることであった。

〈学級担任の思いや願い〉は、“児童の係活動への賞賛”“今後への期待”の2つの概念からなり、担任教師が学級の児童の係活動を支援する上で、肯定的に感じていることについてであった。“児童の係活動への賞賛”は係活動後の児童を賞賛していることであった。“今後への期待”は今後の係活動にも期待していることである参加した児童が企画・運営した係の児童のがんばりを認め、多少の

表1 《係活動とは》カテゴリーの概念

サブカテゴリー	概念	概念の定義	具体例
〈係活動の定義〉	“担任教師が行った係活動への定義づけ”	担任教師が係活動の定義づけして係活動に取り組みさせている	「係活動とは学級生活の充実と向上のために、児童が創意工夫して取り組むものである」と研修でも学んだので。
	“係活動を行う目的”	担任教師が目的意識をもって係活動に取り組ませている	良さや考え方の違いを認め合い協力できる子どもの育成を目指すことで子供たちは学校に対して「居場所」を感じることもできると考えます。
〈係活動の目的〉	“係活動を行うことで達成される学校目標や学級目標”	担任教師が係活動を行うことが学校目標や学級目標が達成されるということを意識して支援している	「係活動」を行うことで学びの丘学園教育目標である「自己教育力と共同学習力を身につけた子どもの育成」の「協働学習力」が身につくのではないかと考えました。みんなと楽しみ、学級目標の「え（えがお）・が（がんばる）・お（おもしろい）」に近づこうという目標をもって行いました。

表2 《担任教師が感じていること》カテゴリーの概念

サブカテゴリー	概念	概念の定義	具体例
〈学級担任が感じている児童の活動の課題〉	“係ごとの活動の差の課題”	係ごとに活動の内容に差があることを担任教師が課題と感じ、どうにかしなければならぬと感じている	係の中でも係ごとの活動の差は大きくあるかなと思います。全部の係とは言わないかもしれないけど、まあなんかいろんな係が、いろんな種類の活動をやるようになれば、もっと楽しくなるのかなと思っているという感じです。
	“係内の役割分担の課題”	役割分担を詳しく、分かりやすくしなければならぬと感じている	役割分担はまあもっと詳しくできたらいいなって思ったところもありましたよね。まあ少数のところもあるのでどうしても役割分担しにくいようなところもあるかなと思っただけです。
	“係の活動時間の課題”	学級活動は年間 35 時間という限られた時間の中で、どのように時間を設定するか悩んでいる	学級活動の時間今 24 時間取ってるので、あと 11 時間ってなると…大人しめな人たちは活動自体がそんなに行われて（ない）…まあやろうと思ってるのかもしれないけど、なかなかその時間をつくれなかったりとかいうところがある。
	“教師の関わりの課題”	教師が忙しい日々の中でどのように係活動において児童と関わっていくか悩んでいる	積極的に動いている係と、やっぱり自分から何かをしたいって言って動く係とやっぱり差があるように感じて、自分もちよっと忙しいので、動いていない係に手がつけられて無いのでどうしたものかなと悩んでいます。
〈学級担任の思いや願い〉	“児童の係活動への賞賛”	係活動後の児童を賞賛している	何かを企画してやるっていうふうなことだったと思うので、なんかその企画をすることを楽しさを覚えた子もいれば、発表の場になった子もいれば、なんかほんとそれぞれの子供たちがそれが本当にそれぞれのステージがあったいい係活動の時間だったなあというふうに思っています。
	“今後への期待”	今後の係活動にも期待している	これからも楽しいゲームを企画してくれることを期待しています。

失敗は許容していることであった。

ウ《係活動の方法》(表3)

このカテゴリーは、児童が自発的、自治的に企画・運営する係活動の方法であり、〈係の種類〉〈係のメンバー構成〉〈係活動の企画書〉〈係活動の本番〉の4つのサブカテゴリーで構成された。

〈係の種類〉は“係の種類決定”の概念からなり、学級会を開いて設置する係の種類を決めていることであった。

〈係のメンバー構成〉は“係のメンバー構成の方法”の概念からなり、人間関係が広がるよう係のメンバー構成の方法を工夫していることであった。

〈係活動の企画書〉は“企画書の作成”“企画書の内容”“企画書の児童の主体性への効果”“企画書の活動の個人差への効果”“企画書の担任の関わりへの効果”“企画書の工夫”の6つの概念からなり、係活動の企画書に関することであった。“企画書の作成”は企画書の作成時間を十分に確保していることであった。“企画書の内容”は企画書の作成で役割分担ができていたことであった。“企画書の児童の主体性への効果”は企画書を書くことで児童が主体的に係活動を行うようになることであった。“企画書の担任の関わりへの効果”は企画書を書くことで役割分担が明確になり、活動量の個

表3 《係活動の方法》カテゴリーの概念

サブカテゴリー	概念	概念の定義	具体例
〈係の種類〉	“係の種類決定”	学級会を開いて設置する係の種類を決めている	1・2学期の係活動は設置したい係の種類を学級会で決定しました。こうすることで「自分の意見が反映されている」と子供たちが感じることができ、係活動への意欲を高めることができました。
	“係のメンバー構成の方法”	人間関係が広がるよう係のメンバー構成の方法を工夫している	係を選ぶ際にはアンケート用紙を配り記入することによって、仲のいい集団で固まらず、一学期あまり交流が無かった友達とグループを組み、関わる機会を増やすことができました。
〈係活動の企画書〉	“企画書の作成”	企画書の作成時間を十分に確保している	あとは週(一回)一時間の半分を係の企画の時間としてとってるので。企画書を書くのであれば、こういう隙間時間とか給食時間が終わったあととか、朝の会のちょっとした時間だったりとかで、つくっていただければいいなと思ってます。
	“企画書の内容”	企画書の作成で役割分担ができています	企画書はタブレットでもいくつか係が入ってたし、今日さっき僕コメント全部書いてたんですけど、まあちょっと役割分担とかに関しては、何日に何すると結構書いてるところもあったので、ある程度見通しはもってやってるのかなあとは思いましたし、まあたぶん決めておかないとあななあになってしまうことが、自分たちもある程度分かっているのと思ったより書いてたなと思いました。
	“企画書の児童の主体性への効果”	企画書を書くことで児童が主体的に係活動を行うようになる	生き生きとして、なんか9月に書いてたよりも企画書を書くことで、しかも時間をたくさんとることで、新たなアイデアとかいっぱい生まれてきて、よりなんか係活動やってやろうみたいな感じになってるので、とても良いことだったなと思います。
	“企画書の活動の個人差への効果”	企画書を書くことで役割分担が明確になり、活動量の個人差がなくなる	企画書については、子供達が積極的に動いているのがよく伝わるので、誰が何を何に動かかっていう役割分担がしっかりしてるので、係ごとでなんかやってない人とやってる人の差がなくなったというか、みんなそれぞれが動いているのですごくいいなと思ってます。
	“企画書の担任の関わりへの効果”	企画書を書くことで対象者の関わり方が明確になる	子供たちが主体的に「〇〇したいです」と教師に要望を出し、教師がバックアップするという形が出来上がったことです。
	“企画書の工夫”	低学年では企画書の右側をカレンダーにすることで見通しが立つ	やっぱりこのカレンダーだったのがよかったですね。「いつまでにやらないといけないんだらう?」「準備をこれもやっていかないといけない!」っていうのは、子供たちが自分で計画を立てたりとかができたのは良かったかな。
〈係活動の本番〉	“本番の時間”	限られた時数の中で本番の時間を工夫して確保している	朝の会の時間とかを使ってじゃんけんしたりとかなんかいろんな係がその時間を使ってやっています。結構よく活動していると思います。
	“活動の内容”	様々な係が工夫して活動を行っている	活動自体は積極的に行っているんで朝の会の時間がメインで使いながら色んなことがあってまあ掲示物もどんどん増えていたりしてるので、そう、卓球もやりました。なんかいろんなあんまりどっちかっていう動いてない係もなんか今日は試してとりあえず自分たちがやってるってどこでやったらいいかとかも考えたそうです。

人差がなくなることであった。“企画書の工夫”は低学年では企画書の右側をカレンダーにすることで見通しが立つことであった。

〈係活動の本番〉は“本番の時間”“活動の内容”の2つの概念からなり、係活動の本番に関してのことであった。“本番の時間”は限られた時数の中で本番の時間を工夫して確保していることであった。“活動の内容”は様々な係が工夫して活動を行っていることであった。

エ《係活動の影響》(表4)

このカテゴリーは、係活動が学級の雰囲気や他

の教育活動に影響を与えることであり、〈学級への影響〉〈係活動から波及した影響〉の2つのサブカテゴリーから構成された。

〈学級への影響〉は“学級の雰囲気にもたらす影響”“学校生活への前向きな態度への影響”の2つの概念からなり係活動が学級にもたらす影響であった。“学級の雰囲気にもたらす影響”は係活動が学級のよい雰囲気づくりに影響をもたらしていることであった。“学校生活への前向きな態度への影響”は児童が係活動を楽しみにしてメリハリある学校生活を送ることができていることであった。

表4 《係活動の影響》カテゴリーの概念

サブカテゴリー	概念	概念の定義	具体例
〈学級への影響〉	“学級の雰囲気にもたらす影響”	係活動が学級のよい雰囲気づくりに影響をもたらしている	なんかそういう風にそれこそ係で楽しい時間があるから、その時間に向かってちょっとがんばろうとか6時間目終わったあとちょっと係の時間って、なんかそれを楽しみにがんばろうみたいなのをやってるので、そういう楽しみっていう部分が、学級のそういう姿(落ち着いている姿)に繋がってるかなと思います。
	“児童の学校生活への前向きな態度への影響”	児童が係活動を楽しみにしてメリハリある学校生活を送ることができている	今クラスでチャイムの前に早めに座って時間を貯めるみたいな活動をやってて、貯まった時間をお楽しみ会の追加の時間として使うみたいなのをやっているんですけど、授業をずっとこうやってる感じじゃなくて、メリハリつくのですごくいいなと思います。自分もだだらしがないので、とってもいいなと思っています。
〈係活動から波及した影響〉	“人間関係への影響”	係活動が人間関係により影響をもたらしている	学期は友達の輪が広がるというか、普段あんまり、3年生のときあんまり変わってなかったその子の面白さとか、ここなんかすごいよねとかいう発言が増えたので、それが一番印象的です。
	“他の教育活動への影響”	係活動が他の教育活動にも良い影響をもたらしている	一学期にあまり交流が無かった友達と係活動を通して協力することができ、交友関係が広がりました。子供たち同士で積極的に意見を交流する場面を多く設けることができたので、授業中でのペアの意見交流や班の交流でも、自分の意見を自信をもって発言する姿が見られました。
	“生活態度への影響”	係活動を中心に学級がよい方向に向かっている	なんかこう2組ってテンヤワンヤ矢印が散ってあっちこっち行ったりするんですけど、「クリスマスだ！やるぞ！」ってなったときの矢印の向きかは、みんなしゅっとそろうというか。こうやっぱ無理にさせるんじゃなくて子供がやりたいって思うものを持ってきてあげたら「ああ、子供たちって、こんなに力を発揮するんよね」と思った学活でした。

表5 《児童が感じていること》カテゴリーの概念

サブカテゴリー	概念	概念の定義	具体例
〈係活動を企画・運営する児童の意識〉	“係活動を企画・運営する目的意識”	児童が目的意識をもって係活動を企画・運営している	「友達を楽しませよう！」「クラスを盛り上げよう！」と係活動の内容も自分たちで考えていました。
	“児童の主体性”	児童が主体的に企画・運営することで積極的に活動を行っている	子供たち主体で動くことによって、「協力して成功させよう」という思いをもつことができ、積極的に話し合いながら試行錯誤し取り組む様子が見られました。
〈参加した児童が感じていること〉	“参加した児童の思い”	参加児童が活動に楽しく参加している	9月27日にドッジボール大会をしました。子供たちからは「全員で遊べて楽しかった！」「外で遊んで気持ちが良い！」などの声が聞かれて、とても嬉しそうでした。
	“企画・運営してくれた児童への感謝”	参加した児童が企画・運営した係の児童に感謝の気もちをもっている	感想発表のとき、子供たちからは「係のみんなが一生懸命準備してくれたおかげで楽しむことができました。ありがとうございます。」という声が聞かれました。
	“企画・運営してくれた児童のがんばりを認める様子”	参加した児童が企画・運営した係の児童のがんばりを認め、多少の失敗は許容している	最後やっぱ係活動のクリスマス会があったおかげでまあその頑張ってる友達を認めている子増えたかなっていうふうに思います。自分もやってるから大変さはわかるし、きっとその係もなんか大変なことがあったんだろうなって、多少失敗してもまあしょうがないよねっていうふうな気持ちで、頑張ってくれてたと思います。

〈係活動から波及した影響〉は“人間関係への影響”“他の教育活動への影響”“生活態度への影響”の3つの概念からなり、係活動から派生して影響をもたらしているものについてであった。“人間関係への影響”は“係活動が学級のよい雰囲気づくりに影響をもたらしていること”であった。他の教育活動への影響は係活動が他の教育活動にも良い影響をもたらしていることであった。“生活態度への影響”は係活動を中心に学級がよい方向に向かっていることである。

オ《児童の感情》(表5)

このカテゴリーは、係活動を企画・運営した児童やその活動に参加した児童の感情であり、〈係活動を企画・運営する児童の意識〉〈参加した児童が感じていること〉の2つのサブカテゴリーで構成された。

〈係活動を企画・運営する児童の意識〉は“係活動を企画・運営する目的意識”“児童の主体性”の2つの概念からなり、係活動を企画・運営する児童の感情であった。“係活動を企画・運営する目的意識”は児童が目的意識をもって係活動を企画・運営していることであった。“児童の主体性”は児童が主体的に企画・運営することで積極的に活動を行っていることであった。

〈参加した児童が感じていること〉は“参加した児童の思い”“企画・運営してくれた児童への感謝”“企画・運営してくれた児童のがんばりを認める様子”の3つの概念からなり、参加した児童が係活動に参加して感じていることであった。“参加した児童の思い”は参加児童が活動に楽しく参加していることであった。“企画・運営してくれた児童への感謝”は参加した児童が企画・運営した係の児童に感謝の気持ちをもっていることであった。“企画・運営してくれた児童のがんばりを認める様子”は、参加した児童が企画・運営した係の児童のがんばりを認め、多少の失敗は許容していることであった。

3 考察

脇田(2019)は「係活動は、自分たちの学級を楽しく、豊かなものにするために、自分たちで創意工夫しながら取り組む活動である。そのため、『自分たちで計画し実践する活動』であり、主体性や協調性、創造性、企画性などを主に培う活動である。」と述べている。本研究を通して、担任教師が適切に指導・支援を行うようになれば、児童が安心して、また自信をもって係活動に取り組み、ま

たその活動を学級のみなが楽しむことを通して、学級の人間関係が広がっていくことが明らかになった。そのように友達が楽しむ姿をみることで、活動を企画・運営した児童も、自信ややる気をもって次の活動を企画・運営するようになり、停滞する係がなくなっていった。また、係活動を通して、授業中以外にも、学級の様々な友達と関わることができるようになり、今まで気づけていなかった友達のよさに新たに気づいたり、今まであまり関わりのなかった友達とも仲よくできるようになったりするなどのよい影響をもたらすことがわかった。脇田(2019)は「自発的・自治的な活動で学級経営を充実させるといっても、どこまで教師が指導性を発揮するのか、どこまで子供に任せるのか、子供たちの実態を精緻に見極める教師の観察眼が必要になってくる」とも述べている。担任教師が日頃の観察をもとに係のメンバー構成を行ったり、企画書を見て適切に支援を行ったりすることで係活動が活性化し、児童が自発的にメリハリのある学校生活を送ることができるようになったと考える。今後も係活動を通して、児童が学校に来る楽しみを感じたり、メリハリのある学校生活を送ったりすることができるようにこの児童が自発的、自治的に企画・運営するこの係活動を研修や担任教師へのコンサルテーション等を通して、広めていきたい。

主な引用・参考文献

- 木下康仁(2007) 修正版グランテッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)の分析技法 富山大学看護学会誌第6巻2号, 1-10
- 文部科学省(2017) 小学校学習指導要領解説特別活動編 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター (2019)『特別活動指導資料 みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)』文溪堂
- 脇田哲郎(2019) 学級経営の充実に資する小学校係活動の研究—居心地の良い集団による遊びを基盤とする活動を通して— 福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻(教職大学院)年報(9), 139-146
- 脇田哲郎(2022) 人間関係に関する議題を話し合う学級会を実施した担任の指導観～小学校教員へのインタビュー調査を通して～ 福岡教育大学大学院教職実践専攻(教職大学院)年報 (12), 159-166
- 山本綾香・竹鼻ゆかり(2021) 小学校における発達障害の子供に対する学級担任の支援プロセス—M-GTAを用いた分析— 東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ科学系第73集, 301-314